

## Vol. 148 大規模小売店舗出店対策委員会 第2回先進地視察報告記（平成20年11月25日）

今回は商店街活性化で全国に知られる「戸越銀座商店街」と日本最大級の「越谷イオン・レークタウン」を視察して参りました。

①戸越銀座商店街は五反0田から東急池上線に乗りかえて二つ目が戸越銀座駅で降りるとそこは商店街であります。この街にはもう一本都営浅草線戸越駅もあります。品川区の南端に位置して大田区、目黒区の境目近くにあります。昔は江戸へ出入する最後の宿場街で「江戸を越える」が地名の語源と伝えられます。

銀座名がついたのは関東大震災の折、銀座の煉瓦作りの建物が崩壊。その煉瓦をこの地へ敷きつめた縁で日本で始めて銀座名を使わせてもらうこととなり、この街を大きく発展させる事となり、この事が起爆剤となって全国に銀座名を名乗る商店街300ヶ所余りが生まれました。この商店街は三つの商店会400店から成立しており、街の長さは1600メートル日本一の下町情緒たっぷりの街であります。平日で一万人的お客さんでにぎわうと言われます。ここの商圈は大崎から蒲田へと町工場の多い所ですから工場で働く人達にとって訪れ易い下町商店街だったようであります。

この街の特性は（イ）ユビキタスプロジェクトによって電線類は埋設されており、防犯カメラ、指向性スピーカーが既に設置されて街の安心安全性が進められておりました。（ロ）高齢者対策として十年前から「シルバーカード」が発行されており、会員には割引や加盟店毎にオリジナルなサービスがあり、時には落語会、コンサートを開催招待されており、またこのカードの裏面は「ライフカード」となっており高齢者の安全にとの配慮がなされておりました。（ハ）戸越銀座街のブランド商品は30点位とききました。

この商店街でなければ手に入らないブランド品と言われましたが「ソース、抹茶サブレ、泡盛、焼酎、ドレッシング、うな重等・・・」、決して奇抜なものではありませんでした。冠名の「戸越」ブランドに商店街の経験、工夫を生かした中身のよさもあって多くのお客さんを満足されて、お中元、お歳暮には全国各地へと贈られるそうです。身近なアイデアを共同して生かすことが商店街にやる気を起こさせ商いの勢いを失わせないからだろうと感じました。

この街のグランドテーマは「日本一住み易い街を目指して」であります。私は君津の方がずっと住み易い街だと思いました。

②「レークタウン・イオン」40万㎡の湖を抱え566店が出店した日本最大級の大型モール、この様な大型モールは多分これで終わりだと思いました。この規模のモールを経営するには商圈は200万人から300万人必要とするからです。それは前年度の各大型店の決算書がその証明しております。

この様な方策が正しかったなら大型店の評価は金融危機以前にあんなには下らない筈であります。「少子高齢化、金融危機、世界大恐慌の時代には大型店等を誘致する他力本願ではなく、地元産業を育てる自力本願策に変えるべきです」（11/19日経）街作りとは地元商店個々の売上を伸ばし地域に貢献することであり、研修視察は先進地の情報を生かし工夫努力、実現することです。